

通貨流通高関連計数の季節調整値改定について

通貨流通高関連計数について、定例の季節調整替えを実施しましたので、お知らせします（定例の季節調整替えは、原則として、前年分の確報データが揃った時点で実施しています）。季節調整方法の概要は以下の通りです。

- 1) 米国センサス局法 X-12-ARIMA（バージョン 0.3）を使用。
- 2) 各系列とも乗法モデルを用い、対数変換を実施。事前調整における異常値と一時変化の検出・判定基準はプログラムのデフォルト設定による。季節調整に用いたデータは 1961 年 1 月から直近の 12 月までの 56 年間とし、その後は季節要素の予測値を用いて季節調整値を作成（1960 年以前の季節調整値は不変）。

— 従来、データ系列の始期（1955 年 1 月）から直近の 12 月までのデータを用いて季節調整値の改定を行っていたが、X-12-ARIMA で取り扱えるデータ数の制約^(注1)から、2012 年に実施した季節調整値改定より直近 56 年分のデータを用いる方法に変更。

（注1） X-12-ARIMA で季節調整を実施する際に使用できるデータ数の上限は、720 個（月次計数の場合、60 年分）。このうち、4 年分は予測値の推計に使用。

- 3) 曜日調整はユーザ一定義変数を使用。

<季節調整を適用する際に用いたモデル>

指標名	ARIMA モデル	レベルシフト、ランプ	曜日調整	データ期間
銀行券発行高 平均残高	(110) (011)	1989 年 2 月 2002 年 2～4 月 2005 年 2～4 月	なし	1961 年 1 月～ 2016 年 12 月
銀行券発行高 末残	(212) (011)	2002 年 3 月 2005 年 3 月	あり	1961 年 1 月～ 2016 年 12 月